

家内安全 身体健全 病氣平癒  
先祖供養 心願成就

Career well-being  
Social well-being  
Financial well-being  
Physical well-being  
Community well-being

これらの五か条はそれぞれ何かご存知だろうか。

最初のもとは、最近訪れた滋賀県の三井寺金堂の賽銭箱の脇にあった願ひ事のリストである。

二番目のものは、GDPに代わり新たな社会的な幸福を測る指標として最近注目されているWell-beingに関するものだ。英文の五か条は、幸福度調査で有名なギャラップ社

が、このWell-beingを構成する要素として挙げているものである。それは仕事など生活全体における満足、人間関係、経済的、身体的、地域コミュニティにおける満足である。

昨年12月「教育立国推進協議会」という官民合同の組織が、超党派の国会議員と民間の発起人によって創設された(筆者も民間人として参加している)。設立の趣旨は、日本立て直しの根本は「人財」であるとして、人に投資し、格差を是正し、全ての人にチャンスと可能性があり、自己肯定感を持てる社会に変えていくというものだ。

その最近の会合で、こうした



教育改革の鍵となる概念のひとつとして、このWell-beingが取り上げられた。そこではWell-beingのレベルが高い社員がいる会社は生産性が高まるという調査結果が紹介された。これまでに採られた経済政策が思うよう

な成果を上げぬ中、経済再生に役立つWell-beingの役割とその向上に果たす教育の力に着目したのであろう。

そこで改めてギャラップ社が幸福の構成要素として挙げた5つのポイントについて考え始めた矢先、偶々訪れた三井寺で、冒頭の5つの願ひ事リストが目に入った。いずれも幸福度を測る5つの基準と言えるものだが、それらを比べると興味深い違いがあることに興味を抱いた。

願ひ事のリストに見て取れるのは、健康で、家族や先祖を大切にし、それが叶うことを密かに願うという、やや内省的で慎

まやかな気持ちである。それが日本人にとっての伝統的幸福感なのだ。他方Well-beingの5つの要素には、やや西洋的、経済的・外向的なニュアンスを感じた。それは上記「協議会」が人財、人への投資、格差の是正、自己肯定感を教育の目的としていることに通じる。Well-beingを幸福度の基準とする政策を進めると伝統的幸福感はどうなるのだろうか。

更に自殺や引きこもりが社会問題になっているいま、自己肯定感を高めることの重要性は十分理解できる。だが真の自己肯定感とは、自分の感情を抑制しつつ他と協力して、ひとりではなし得ない成果を挙げることへの喜びから生まれるのである。算数で良い点を取ってライバルを蹴落すことから生ずるのではない。

従って今の偏差値教育の中で自己肯定感をたせようとすることは、競争を煽り逆効果になりかねない。

子どもの教育で目指すべきは、音楽・美術などの文化やスポーツなどを通して非認知的能力の向上によって共感力を醸成しつつ、並行して数学やテクノロジーなどの認知能力向上に努めることである。近代的手法でWell-beingを高めるには、常に伝統的価値感とのバランスを考えていかねばならない。

賽銭箱の前でそんなことを考えた。(近藤文化・外交研究所代表)

## ウェルビーイングと自己肯定感